

圃場づくりと適期作業で安定した収量の確保を目指しましょう！

◎排水対策 ～大豆栽培の基本～

- 圃場の排水対策が不十分だと土壌が過湿条件になり、①播種時に種子が呼吸困難で発芽不良、②腐敗等による出芽率の低下③生育中期以降の滞水による根腐れや生育阻害などで収量の減少につながります。以下のポイントを参考に対策をしましょう。

明渠施工のポイント

- 明渠が大きいほど排水効果は高いが、播種面積が少なくなります。圃場内の作業に影響しない **深さ40cm程度**（右図）を目安にしましょう。
- 水田に隣接している圃場は水田側から漏水しないように **特に深く施工** しましょう。
- 施工後も作業を通して巡回し、溝の崩れや埋没を確認した場合は補修しましょう。

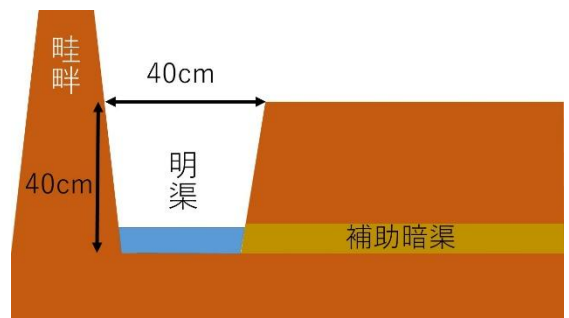


図 明渠の施工例

暗渠施工のポイント

- 既に施工されている本暗渠は出口に詰まり等がないか降雨後の排水状況を確認しましょう。
- 補助暗渠はサブソイラや弾丸暗渠で本暗渠と接続し、**明渠に確実に繋が** げましょう（右図）。

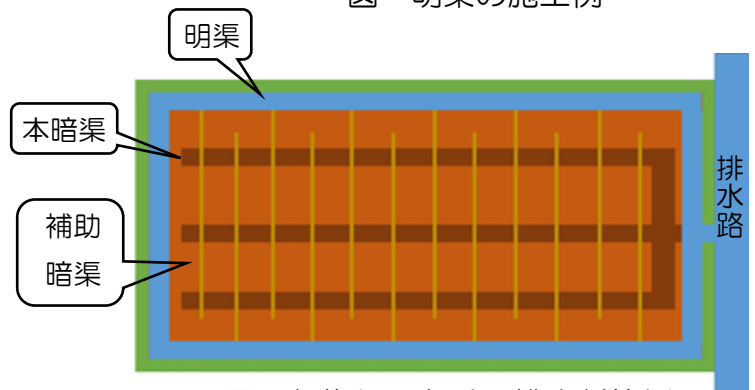


図 転換畑における排水対策例

◎土づくりと施肥 ～地力の向上は収量の向上～

- 大豆は地力に依存する作物であり、土壌の肥沃度が収量に大きく影響します。そのため、堆肥等の有機物や土壌改良材の施用（左下表）によって地力の維持・増進に努めましょう。
- 基肥は右下の表を参考に堆肥の窒素成分を加味して施用しましょう。窒素の過剰な施用は根粒菌（裏面後述）の着生量に悪影響を及ぼす可能性があります。

<堆肥と苦土石灰の施用量>

資材	施用量 (/10a)	目的
発酵鶏糞	100 kg	地力の維持・増強 微量元素を補給 連作障害の軽減 (左のいずれかを施用)
豚糞堆肥	0.5~1.0 t	
牛糞堆肥	1.0~2.0 t	
苦土石灰	80~120 kg	pHの矯正、根粒着生促進

<基肥の施用量>

成分	施用量 (/10a)
窒素	2~3 kg
リン酸	6~8 kg
カリ	10~12 kg

◎大豆と根粒菌の関係 ～根粒菌の活性が収量を決める～

- ・子実の生産には多くの窒素を必要とし、その多くは根粒菌による固定窒素と地力窒素です。そのため、根粒菌の窒素固定能を高める土壌の環境整備が重要です。

根粒菌の活動が活性化するためには・・・

- ①排水性が良く土壌に酸素が供給されやすいこと（明渠・暗渠の施工）
- ②土壌 pH が 6.0～6.5 であること（土壌改良材の施用）
- ③過度な硝酸態窒素の基肥施用を避けること（有機物と基肥の適切な施用）

◎適期作業（耕起と播種） ～余裕を持った準備で適期を逃さず～

- ・出芽を安定させるために碎土率を高めた耕起が重要です。ある程度乾燥した状態で碎土率（直径 2cm 以下の土塊の割合）が 70% になるようにゆっくり丁寧に耕起しましょう。
- ・収量を安定的に確保できる播種適期は 5月下旬～6月上旬です。作業に遅れが生じた場合は生育量を栽植本数で補うため、下表を参考に播種しましょう。

<播種時期と栽植本数および播種量>

播種時期	適期	栽植本数 (/10a)	株間の目安※	種子量 (/10a)	
				シュウリュウ	里のほほえみ
5月下旬～6月上旬	◎	12,000 本	22 cm	3.9 kg	4.7 kg
6月中旬	○	15,000 本	18 cm	4.9 kg	5.9 kg
6月下旬	△	18,000 本	15 cm	5.9 kg	7.1 kg

※畝幅75cmおよび2粒点播の場合

◎病害虫防除 ～播種前・播種後にしっかり対策～

- ・病害虫被害を防ぐために必ず播種前に種子消毒を行いましょう。また、多発生が懸念される場合は播種後も対策をしまししょう。

<ネキリムシ類・紫斑病対策>

農薬名	防除時期	防除方法	ネ	紫
クルーザーMAXX	播種前	乾燥種子 1kg 当たり、原液 8ml を塗抹処理	○	○
キヒゲン	播種前	乾燥種子重量 1% を粉衣		○
キヒゲンR-2フロアブル	播種前	乾燥種子 1kg 当たり原液 20ml を塗抹処理		○
ネキリエースK	播種時～本葉 2 葉期まで	土壌表面株元に 10a 当たり 3kg 散布	○	

ネ：ネキリムシ類 紫：紫斑病

◎雑草防除 ～適切な除草剤散布で雑草ゼロ～

- ・土壌処理剤を使用する際のポイントは、①播種直後～2日以内の散布、②耕起を丁寧に行う（碎土率 70%）、③土壌の過乾燥時の処理は効果が劣るため注意しまししょう。
- ・散布する際は周辺作物に飛散しないように注意しまししょう。

STOP！農作業事故 ～春季事故防止運動強化期間～ 4月1日～6月10日

農作業中の熱中症を予防しまししょう ～こまめな休憩と水分補給を～